



## 優秀賞

### 兵庫県 豊岡遊技業組合 「但馬地域を守る社会と一体となった 暴力団排除活動の推進」事業



豊岡遊技業組合 組合長  
三山弘容さん

## 協議会設立や条例制定で 暴力団排除の中心を担う

### 暴力団を撤退に追い込んだ活動と 進出の芽を摘むための協議会設立

2000年4月、コウノトリとカバンの町として知られるのどかな兵庫県豊岡市が騒然となった。姫路市に拠点を置く暴力団事務所が進出し、それまで暴力団の空白地帯とされていた当地で活動を開始したのだ。パチンコホールのなかには玉をぶちまけられるなどの嫌がらせ行為を受けたところもあり、対策が急務となった。このとき地元警察署や行政の指導のもと、建設業界などととも立ち上がったのが豊岡遊技業組合である。三山弘容組合長などが中心となり、但馬地域で初めてとなる暴力団追放組織「暴力団追放協議会」が結成されたのを皮切りに、住民と一体となった暴力団追放運動が始まった。

運動は功を奏し、翌年には有罪判決なども出て、進出してきた暴力団は撤退を余儀なくされた。しかしその後もスキを見せず、進出の芽を摘むという意味でも、さらに結束を強めていこうと、新たに飲食店、ホテル・旅館、空港、宅地建物、喫茶などのさまざまな業界団体が参加して、2002年に協議会は「豊岡南地区暴力団追放協議会」へと名称を改めた。この発展・拡大は、遊技業組合が本腰を入れて暴力団排除活動に取り組んでいる姿勢を他業種団体から評価された結果と言っても過言ではない。

同協議会では、豊岡南警察署をはじめとする但馬地区内の各警察署、各地域防犯協会、近隣自治体などと連携しながら、毎年、年次総会として「豊岡南地区 暴力追放・防犯・交通安全大会」を開催し、防犯講習会、啓発キャンペーンなどに取り組んでいるが、これによって各種業界はもとより、地域住民への暴力追放や防犯に対する意識づけの役割も担っている。また、大会には組合員が積極的に参加して、活動の盛り上げに一役買っている。こうした長年にわたる努力が高く評価され、昨年11月に公益財団法人 暴力団追放兵庫県民センターが主催した「第20回暴力団追放兵庫県民大会」において、三山組合長が暴力団追放運動功労者として表彰された。



暴力団追放兵庫県民大会に参加



長年の努力が評価され、功労者として表彰される三山組合長（同右）



総会で大会宣言を読む三山組合長



### 全国的にも珍しい

#### 暴力団対策基金条例の制定を後押し

さらに暴力団排除活動の一環として注目されているのが、今年3月に制定された「豊岡市暴力団対策基金条例」である。これは、昨年4月、兵庫県が「暴力団排除条例」を施行したことを受け、豊岡市でも同様の条例が必要ではないかと豊岡南地区暴力団追放協議会が他団体と協議を重ねていたもので、今年1月、同協議会では地域の5つの防犯協会などと連名で市長に対して陳情を行い、その結果、制定が決まったものである。

この条例は、暴力団排除のための訴訟や事務所設置に対する阻止活動などを行う際の費用を基金から助成する目的で制定されたもので、三山組合長によれば、「同趣旨の条例はすでに宝塚市で制定されており、兵庫県内では2例目のケース」とのこと。500万円を目標額として基金設立を行うが、うち300万円は市予算からの拠出とし、残りの200万円は1口100円を基本に市民からの寄付でまかなうというのが大きな特徴である。

「現在のところ、市内に暴力団事務所はないし、暴力団員による表立った活動はありませんが、いつ何どき、誰が暴力団の不当行為に巻き込まれるかわかりません。暴力団の進出阻止や排除活動を継続させるために、基金は必要と判断しました。また、市民に寄付を呼び掛けるのは、そうした事態に対する意識高揚という意味合いもあります。基金があることで、万が一の事態には泣き寝入りすることなく、毅然とした態度で暴力団に対処できると思います」と、三山組合長。もちろん、基金は使う事態にならないことが理想だが、こうした条例があること自体が暴力団進出の食い止めや抑止につながるはずである。

健全な大衆娯楽として遊技業が成長していくためにも、暴力団対策は不断の努力が求められる分野である。しかも、その活動は、警察や防犯関係団体はもとより、地域住民と一体となり、組織だったものとなることでより効果が期待できる。その中心的存在として豊岡遊技業組合が果たす役割は、ますます重要なものとなっていくことだろう。